



研修視察報告書

2019年7月9日

[無党派]

代表者氏名	三原 淳子 	記録者氏名	三原 淳子 
視察者氏名	三原 淳子		
視察日	2019年 5月 14日(火) ~ 年 月 日()		
視察先	静岡市立門屋学校給食ロビー		
目的	PFIでの学校給食運営について調査		

視察概要

中学校給食の実施にあけ、標準方式を検討する中、センター方式とPFIを用いて実施するも、プロジェクトチームの協賛中の議会答弁がある。

今までの名法市が提供していた小学校の自校方式での学校給食との違いや、メリット・デメリットを知らぬに、現地視察に行くと、PFI方式は民間事業者主体のため、センター内でも行政が立ち入る範囲が限られていく。よって調理員などの雇用取り等はかわるから、携わる行政職員も、センターの運営が中心業務で、日常的に給食を食へる子どもたちとの接触がない。

学校給食は教育の一環であり、その目的は健全な身体を育て、食教育である。その目的をしっかりと果たす中、学校給食の実現を提案していく。

(詳細別紙)



静岡市立門屋学校給食センター（PFI方式）視察報告

2019年5月14日

開設 S53年9月、建替 H30年4月

敷地 7,003.71 m²

建物 4,656.65 m² 鉄骨造2階建

学校給食（主菜・副菜の調理）

1日7,752食（小学校16校 4,934食 中学校8校 2,818食）

PFI導入可能性調査 H25年10月 費用2,898,000円

PFI事業決定 H25年11月

アドバイザー（コンサル）H26年6月～H28年3月 費用8,888,400円

総合評価一般競争入札 公告 H27年7月16日

参加資格確認通知 H27年9月11日

開札 H27年10月16日

事業契約締結 H28年1月27日 当初額8,382,447,054円

期間 H28年1月27日～H45年3月31日、R15年3月31日

設計 H28年3月～12月

解体 H28年6月～12月

建設 H28年12月～H30年2月

モニタリング支援（コンサル）H29年5月～H30年3月 費用2,916,000円

運営開始 H30年4月～

H28年一時金9千万円を事業者支払い、H30年1月7億2千万円支払。

4半期ごと（6、9、12、3月）の支払い。建設費分割 3800万円×4回

維持管理費 8600万円×4回

15年間、機器のメンテナンス等の増減は業者で賄う。

H37年（R6年）3月、1億5700万円、維持管理費にプラスされる。

物価や社会的状況により変動あり。

食数の多さや、食中毒が発生した場合等を考えて、献立は3種類となっている。食材は地元農家やJAとの取引はなく、市場から買っている。加工品は揚げ物、ハンバーグ、オムレツ、デザート等に使っている。3つの業者の入札で取引先を決定している。一部前日納入もある。SPCに厨房機器事業者の加入により、最新の回転釜、オーブン、フライヤー等の厨房設備の充実と安全管理が徹底されているが、やはり大量生産のため、手作りのおかずとはならない。雇用は82人、調理員は69人（正社員27人、パート42人）、配送12人、清掃1人。それぞれの処遇は民間雇用なのでわからないが、調理員が集まらず、外国人雇用も考えている。

PFI 方式では、1 万人規模の給食提供を同一水準で 15 年間、維持管理も含め、安定的に提供できる。反面、突発的な変更に対応できない。学校数（児童数）の増減があっても変動できない。各学校行事に合わせることもない。

管理栄養士に子どもたちに人気の献立を聞いたが、わからなかった。給食センター長は元下水道部管理者で、月々のモニタリングと事業者との折衝が重要な任務となっている。事業者側はコストを抑え利益を上げようとするので、行政側は要求水準書通りに業務内容を常にチェックしていかなければならない。

名張市の小学校の自校方式の給食では、栄養士をはじめ調理員、教員、生産者が常に子どもたちの近くで働き、子どもたちの顔を見ながら、安全で美味しい給食の提供に力を尽くしている。センター（PFI）方式も目的は同じだが、日々の環境と条件が違い、業務のすすめ方も違う。都会とは違う農地が残り、中学校数も 5 校という名張市ならではの環境を生かし、小学校で築いてきた手作りの、あったかい中学校給食を実現することで、教育の環境を充実させ、子育て支援にもつながると考える。三重県内でも遅れている中学校給食の早期実現にむけ、提案していく。

三原 淳子